



三春中学校だより

第 37 号

発行日 平成 30 年 10 月 18 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【楽しそうです！ 真剣です！ ～三春中学校文化祭『HARU FES』へどうぞ。～】

楽しそうな笑い声、せっぱ詰まった表情、懸命の学年出し物の詰めなど、文化祭を3日後に控え、校内を見学して回ると、さまざまな風景に出くわすことができました。

CGでは、2本の大柱へ文化祭テーマ『一蓮託笑』の掲示、体育館を飾る写真の切り抜き、案内用の人型の切り抜き、合唱部の『どどどドラえもん』、理科室前には書写作品の数々が横たわっていました。体育館では、スポットライトをステージに当て、照明の具合とステージの出来具合を確認する女子生徒、美術室では、部員が机の上の作品を囲んで何やら話し合いをしていました。音楽室では、音合わせの準備をしていたので、覗こうと思ったらドアを閉められてしまいました。本当に楽しそうで一生懸命の準備風景でした。

10月20日(土)の『HARU FES』へどうぞ多くのみなさん、お越してください。



【多くのことを学ばせていただきました！～会長さんと県P喜多方大会に参加しました。～】

10月14日(日)、菊地会長さんとともに、第66回福島県PTA研究大会喜多方大会に参加してきました。午前中の分科会、午後の全体会と講演会という1日行事でしたが、たくさんのお話を学ばせていただいた1日となりました。すべてはお伝えすることはできませんが、学ばせていただいた概要について保護者のみなさんと共有いたしたくご紹介いたします。

【分科会】

三春中学校PTAは、第5分科会「特別支援教育」部会のパネルディスカッションに参加しました。県特別支援教育センター指導主事をコーディネーターに、会津特別支援学校PTA会長様、喜多方市立塩川小学校教諭様、会津教育事務所社会教育主事様、同指導主事様の4名がパネラーとなったのパネルディスカッションでした。テーマは、『特別な支援を必要としている子どもたちへの理解とPTA活動』、協議の視点は、(1)インクルーシブ教育の理解と(2)支援を必要としている子どもたちを支えるPTA活動のあり方の2つでした。

まず、『共生社会』とは、障がい者等が積極的に社会参加・貢献していくことができる社会であり、誰もが相互に人権と個性を尊重し合い、支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合う社会、障がいのある者が地域の一員としての役割を担い、障がいのない者と共に生涯にわたってよりよく生きていくことのできる全員参加型の社会であることを確認しました。次に、『インクルーシブ教育システム』ということについて学びました。インクルーシブ教育システムとは、基礎的環境整備のもと、合理的配慮の中で、障がいのある者もいない者もできるだけ同じ場で共に学ぶことをめざす仕組みであり、障がいをもつ者にももたない者にも授業内容がわかること、学習活動に参加している実感・達成感をもつこと、充実した時間を過ごすこと、生きる力を身につけることを大切にしたい取り組みがなされるのが肝心であると確認しました。

以上のような理念等のもと、日本の義務教育段階の多様な学びの場の連続性（切れ目のない支援体制）について、会津教育事務所の指導主事様より説明いただきました。文科省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」という参考資料に基づき、小・中学校においては、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある「多様な学びの場」を用意していくことが必要であることをお話されていました。さらに、切れ目のない支援は、0歳から義務教育学校卒業後までを視野に「切れ目のない支援を」していくことの大切さについてもお話いただきました。その後、社会教育主事様からは、「放課後子ども教室」や「家庭教育支援者演習」など、社会教育の観点からの説明をいただき、塩川小学校の学校現場からは、『交流及び共同学習』の実際についてお話をうかがいました。会津特別支援学校会長様よりは、「ボランティア学習会」や切れ目のない支援のための『サポートブック』のご紹介もいただきました。

パネルディスカッションの結びには、「ユニバーサルデザイン」（すべての人のための計画・構想・設計のデザイン）や「バリアフリー」（障がいのある人が社会生活していく上で障壁（バリア）となるものを除去すること）のお話を経て、『共生社会』実現のために、『1人の200歩より200人の1歩』、『子ども達にとって喜び多き方（未来）をつくるために…』というパネルで分科会が結ばれました。



【“999”を徹底しよう！～県P大会でもスマホ・LINEの害についての講演でした。～】

生徒への学校ガイダンス、PTA教育講演会、田村P連の講演会と、さまざまな場面で、スマホやLINE等の脳に与える害について繰り返し目にし、耳にする機会が多くなりましたが、先日の県P喜多方大会においても、同様の内容で講演会が実施されました。演題は、『SNSをはじめとした情報化社会で、親や教師はどう子どもと関わっていけばよいのか～ネット長時間利用による脳の発達阻害問題を中心に～』で、講師は、ネット健康問題啓発者養成全国連絡協議会共同代表、元弘前大学教育学部教授の大谷良光先生でした。同様のこれまでの講演会の中で最も衝撃的で、本校の“999”は絶対かつ強力に推進していかないと、子どもたちの未来が危うくなってくるという強い危機感をもちましたので、保護者のみなさんと共有いたしたく次号においてご紹介いたします。ぜひ、ご一読ください。

